

身近な家庭動物を通して、

R3年度 教育委員会を通じた
キャリア教育の出前授業
千葉市小中学校6校で実施

命の大切さと、思いやりを育む授業

1単元での授業実施も
先生と一緒に授業内容を作っていくことも可能です。
お気軽にご相談ください。



先生方の声

動物に関心の高い子どもが以外に多く、驚いたのですが、人間と動物との歴史を知って納得できました。

子ども達がどんな人とも一緒に生きていくことを考えるきっかけになりました。

地球規模でSDGsを考えるヒントを与えてくれました。

子ども達が「自分たちにできること」を探し始めるきっかけになりました。

総合的な学習の時間で学習を発展させるのに有効でした。



しっぽのきもち

Tel 090-6217-8119

Mail inochi@shippo-kimochi.net



千葉県動物愛護推進員・獣医師・キャリアコンサルタント等が「啓発・教育」に特化した活動をするために集まったボランティア団体です。



ふくし

ふだんのくらしをしあわせに



人間の福祉も動物の福祉も、相手のことを観察し、心情を想像し、相手の立場になって考えて行動することは同じです。衛生面に配慮し、質の良い「運動・食事・睡眠」や、遊びや学習によってQOLを大切にすることで、人間と動物の双方の健康(One Health)が保たれます。

野外で暮らす猫や、人間に遺棄放棄されたり虐待された動物たちが、人間と暮らしてもらえるようにするにはどうしたらよいかを、科学的な視点でとらえて想像していく体験は、子ども達にとって、動物だけでなく身近な人への配慮へと思考の扉を開くきっかけになると思います。

また、産業動物(いただくいのち)や実験動物などを通して、より深く「健康・福祉・生死」について考える機会をつくることもできます。

地球環境 SDGs

母なる地球はだれのもの



加曾利貝塚に代表されるような古くからの人類と動物との共生の歴史や、地球温暖化に伴う自然や野生動物の現状を知ることで、動物に対する対応を、環境に対する配慮におきかえて考える機会を作ります。

地球温暖化が引き起こす災害が原因となり、行き場を失った動物の現状を知ることで、地球環境保全や防災の大切さを、「我が事」として感じられるようになります。また、災害対応を考えるきっかけにもなります。

しっぽのきもちについての詳細は
ホームページをご覧ください

<https://shippo-kimochi.net/>



子供たちの声



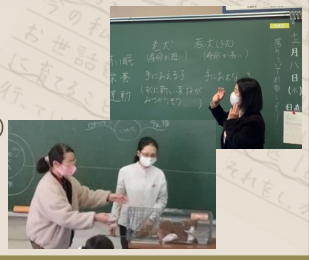
■汚れているとか、老いたからなどの理由で捨てるのは良くないと思った。あやまちをしてしまったのが人間なら、動物との絆をもとにもどそうと、正しくなろうとするのも人間がすべきことだということを学びました。

■通学路で見かけていた猫を汚いと思っていたけど、今度から、びっくりさせないようにそっと挨拶してみようと思う。

実施例

対話型の学習を心がけています。

- ・暮らしの中の動物たち
- ・温暖化の動物への影響(15分)
- ・ボランティア活動紹介(20分)
- ・質疑応答(10分~15分)



いのち

みんなちがって、みんないい



動物センターに収容された動物たちの殺処分の現状は、子供たちにとって衝撃です。けれども、その動物たちが、もう一度人間と信頼関係を作り、希望ある生活へと踏み出すさまは、自分以外の他者に対してどういう自分でありたいかを考える機会になります。

子どもによっては、自分の置かれた状況と、保護動物を重ね合わせて動物の気持ちに共感する子どももいるでしょう。そういう子どもは、一度人間に傷つけられた動物が、再度人間と暮らそうとしている姿を見て、「もう一度オトナを信じてみよう」とSOSを出すきっかけになることもあります。

キャリア教育

「はたらく」こと。
つながること。
生きるということ。



動物に関する「ボランティア」を通して市民生活・職業生活・学校生活・家庭生活という4つの暮らしにおける「はたらくこと」について関係性や違いを知ることができます。

キャリア教育は、誰もがあらゆる場面で自分の興味や特技を社会で活かし、人生を彩り豊かに幸せに生きていく力をつけていくことにあります。仕事=報酬を得ること以外の働き方の提示は、子どもたちにとって、視野を広げる機会になります。

■人間以外の動物にも感情があることを心において、動物たちに接していきたいと思う。働いたり生きたりするうえで、「自分にできること」を常に考えて生活していくことが大切だと思った。

■ボランティアの人達のしていることは大切なことだということがよくわかりました。塾の先生とか家の人にも教えたいです。自分ができるボランティアを調べてみようと思います。